

経営比較分析表（令和4年度決算）

長野県 下諏訪町

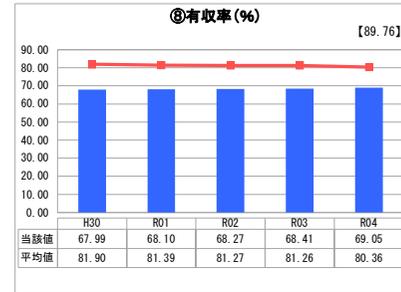
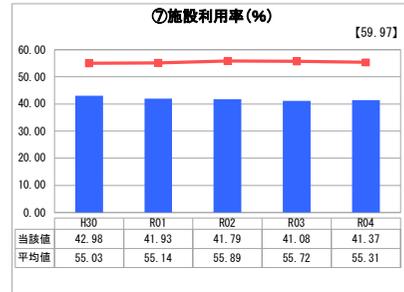
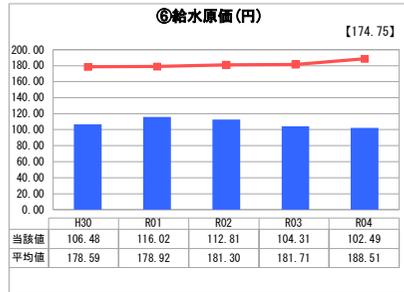
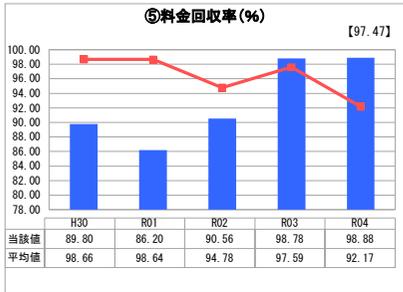
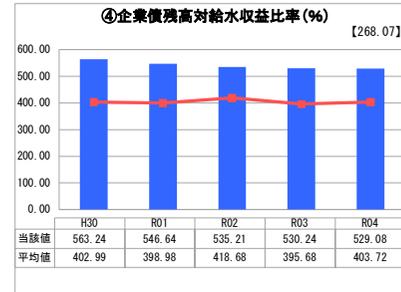
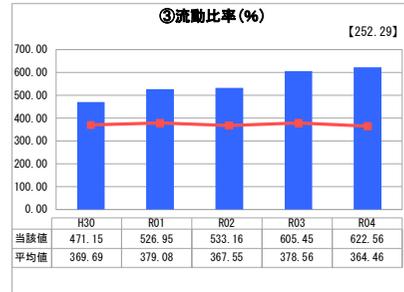
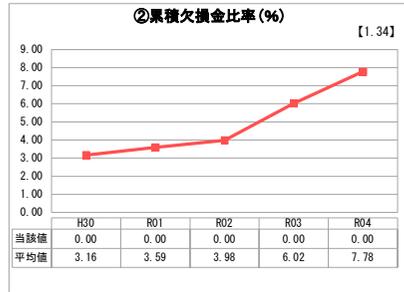
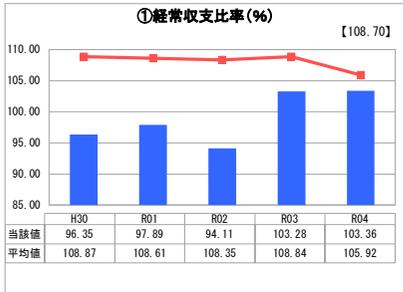
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	62.46	99.94	1,763	

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
19,108	66.87	285.75
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
18,977	6.36	2,983.81

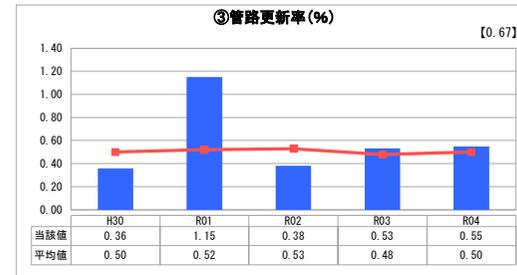
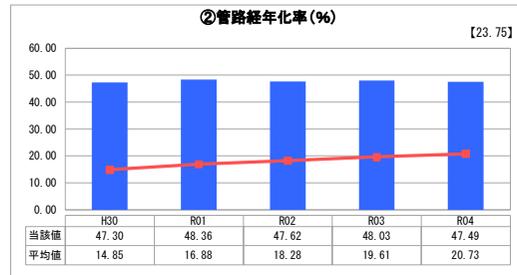
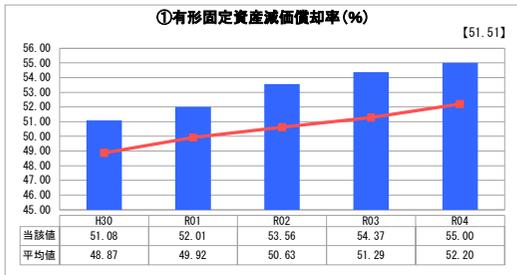
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

赤字決算が継続していたため、令和3年度から人件費の一部を資本的収支からの支出へ変更したことにより、一時的に経常収支比率が100%を上回っている。しかし、根本的な改善ではないため、引き続き経営の見直しが必要な状況である。

料金回収率については、料金改定による収益増加や経費削減により改善傾向にあるが、100%を下回る状況が続いており、更なる料金収入の確保により回収率の向上を図っていく必要がある。

施設利用率については年々減少傾向にあり、現在の水需要に対して過大な施設規模となっていると考えられる。今後も水需要の減少が見込まれるため、経費削減のために検校を更新する際には適切な施設規模について検討していく必要がある。

有収率については、全国平均や類似団体平均を大幅に下回っており、近年は横ばいの状況が続いていることから、漏水調査の実施等により原因を究明し改善を図っていく必要がある。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率、管路経年率ともに類似団体平均や全国平均を上回っており、施設・管路の老朽化が進んでいる状況である。

老朽化が進んでいる管路について、優先的に布設管を行っており、管路更新率については類似団体の平均と同程度である。管路経年率の大幅な改善のためには更新を進めるための財源が必要となるが、現在の経営状況では財源の確保が難しい状況である。

全体総括

令和4年度は単年度収支が黒字となったものの、人件費の一部を資本的収支への計上としたことが要因であり、根本的な解決とはなっていない。投資に回すことができる費用は限られており、更新費用を抑制せざるを得ない状況であるため、引き続き経営改善や更新財源の確保が課題となっている。まずは、経常収支を安定させるために、令和6年度に料金改定を実施する予定である。今後も引き続き、更新費用捻出のため、適切な料金収入の確保について検討していく必要がある。

また、施設の老朽化が進んでいることから、適切な施設規模の検討やアセットマネジメントによる更新需要の平準化、重要給水施設等の選定による優先順位付けを踏まえた施設更新計画の策定を行い、計画的な施設・管路の更新を進める予定である。